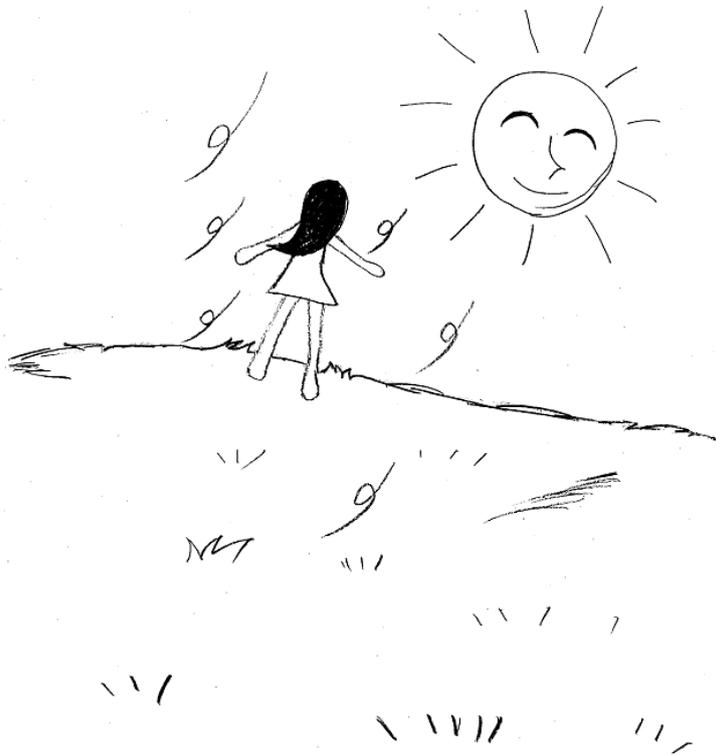


あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター
住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1
愛知県東大手庁舎 1階
TEL：052-954-6722
FAX：052-954-6993
開館：月～金 10～17時



タイトル「風と大草原」



コメント：大草原をワンピースで駆け回りたい

清水麻衣子さん 10歳（小学5年生）

<表紙に掲載する子どもの描いた絵を募集しています>

あおぞらの表紙の絵を描いてみませんか？興味があればご連絡ください。

①絵のタイトル ②絵の説明（30字程度）③掲載するお名前 ④学年（年齢）⑤保護者の方の連絡先（氏名・メールアドレスまたは電話番号）を明記のうえ、メールまたはFAXにてお送りください。

<編集委員募集のお知らせ>

月に一度発行している「あおぞら」は、愛知県被災者支援センターのスタッフとボランティアの方がたで協力をして発行しています。あなたも編集委員になってみませんか？

<発送作業のボランティア募集>

定期便発送作業のボランティアに参加してみませんか？

| 10月10日便の予定 | | | 10月25日便の予定 | | | お問合せ・お申込み |
|------------|-----------|----|------------|-----------|----|--------------------------------------|
| 封入作業 | 10月7日（金） | 午後 | 封入作業 | 10月24日（月） | 午後 | 愛知県被災者支援センター TEL：052-954-6722（渡邊） |
| 発送作業 | 10月11日（火） | 午前 | 発送作業 | 10月25日（火） | 午前 | |



<相談コーナーでの活動（写真中央）>

東日本大震災が発生した時、専門家としての何かの役割を果たさなければならぬと考えました。数ヶ月後に同業者と共に被災地（最初は陸前高田市）へ赴き、各避難所にいる方々に対する飛び込み相談を開始したのが、震災との最初の関わりでした。以前から多重債務者問題や貧困問題などの社会問題への取り組みに関わっていたこともあり、専門家としての資格を得た以上、少しだけ人の役に立つことができるという思い、日々の仕事や活動をしていたところに大きな震災があり、被災地で何か役に立ちたいという思いが当時ありました。現在でも被災地での相談活動も年数回ではありますが、定期的に行っています。

当然のことなのですが、法律に関わる専門家であっても震災が起きた時に必要となる法律知識は、普段使うこともありませんし、勉強することはありません。震災が起き、それなりに勉強はしたつもりですが、聞かれても即答するのがなかなか難しく、最初はかなり戸惑いました。特に震災直後のころは、法律相談というよりも、被災の現状を涙ながらに語ってくれる人たちの言葉を受け止めることが、精一杯でした。役に立たないかもと思いながらも少しでも知識の提供ができればと話を聞いていました。

その後、愛知県被災者支援センターとの関わりを持つことができ、月2回のパーソナル支援チームの会議と各交流会へは、現在でもできる限り参加させていただいています。多くの交流会に参加することで、多くの皆さんとお知り合いになり、話をさせていただくことで、私自身も多くの研鑽を積むことができたと感じております。最近は一応相談員としての立場で交流会へ参加しておりますが、相談はオマケみたいなもので、皆さんと一緒にお茶をしたり、子どもたちと共に走り回るなど楽しくさせていただいております。

相談員としては、5年が経過し、今後は震災に関わる相談というよりも日常における困りごとなどが増えてくるかもしれないと考えています。ちょっと困ったことや分からないことについては、こんな程度のことを相談して良いかなどと不安に思う人が普通です。日々、日常業務の中で多くの相談を聞いていますが、深刻になる前にちょっとアドバイスをもらっておけば、深刻にならずに済んだケースも結構あります。これからも交流会へ参加をさせていただくつもりですので、少し困ったことがあったときに相談とも言えないような話でも、ちょっと聞いてみようと思える存在になればいいなあと考えています。

（司法書士 林一平）



<交流会でのミーティング（写真右）>

「困っていることありませんか？」と聞かれると言葉に詰まりませんか？

いつも心で焦っています。ぼっかりと心に空いたもの、その埋め方がわかりません。ポーっとしている時ですら、あの日を思い出して自問自答を繰り返している自分に、ハッとします。ここに来るまでに、たくさんものを手放しました。家、人とのつながり、仕事、描いた未来…。今、住むところはあります。生きていくために必要なものも買えています。友人もできました。でも少しだけ心をどこかに残してきたようです。

身体の検査、食品や土壌の検査、当たり前でできる環境が欲しいです。もし自分に何かあったら、子どもたちが心配です。子どもに何かあったら…。今は食品の産地を気にして、確認しています。我が家独自の基準は国よりもずっと低い1ベクレル/kg。土壌汚染の状況を見て、今までの検査データを見て、グレーのものも食べさせません。

手放しに復興を喜ばません。お話の場で「避難しました」と伝えると「私、被災地に行ってきたよ」と声を掛けてくださいます。でもその中でどれだけの方が放射能と向き合っていたのでしょうか。特に若い子を連れて線量の高い場所に行くのに、防御する術を伝えることなくありのままを見に行かれる方がいます。現地の人がマスクをしていないのに自分たちがマスクをできない？マスクが必要です。防御が必要です。地震津波によってたくさんの辛く苦しい思いをされ、死ぬか生きるかの瀬戸際だった311の後に、これは自分勝手にせいたくな選択でしょうか？今も被曝と隣り合わせの中、放射能に立ち向かって暮らしている人がいます。その人たちが心配です。いらぬお世話ですか？そして私は酷い人間ですか？放射能と

いう見えないものから自分を守ること、それがどんなに大変なことか、それを理解してもらえない現状が苦しく、また言葉を飲みこみます。すべて1回だけのことではなく積もり積もっていくことが被曝の怖さなのに、一つに対して直ちに影響がありません。それが今の日本です。

知り合いに甲状腺癌がみつかりました。震災の時、警戒区域で暮らしていた方で、子どもではなく私の親世代の年齢。数年前に知り合った時、その人は「近県は食品検査をしていないが、県産は検査をしているからそちらを選んでいる」と話され、私は何も言えませんでした。危険かどうかの基準は人それぞれ。この方は自分で学んだうえで決めたことだから…と。でも病気が見つかったと聞いて、あの時何か伝えたら、病気そのものは防げなくても、発症はもっと遅かったかもしれないと…後悔しました。

あの日、あの時に、挙げられなかった声、飲み込んだ言葉。そんな言葉があの日以来すごく増えました。

原発事故から5年が経ち、支援はどんどん打ち切られています。一方で周囲にはいろいろ病気が見つかる方が増えました。これは加齢？被曝の影響？知る術はありません。いつ避難したかに関わらず、年齢に関わらず、そしてあちらに支援に行ってくださいった方も同じように、検査を受けていない方は一度受けて欲しいと思います。



<311の時、生後1か月
だった娘はお姉ちゃんになりました(左)>

(避難元東京都 酒井)

※グリーンスマイルの会(瀬戸市)にておしゃべり会を毎月第2金曜日開催。

交流会（岩手県宮城県お茶飲み交流会）

セミの鳴き声が本格的になり、梅雨明けの到来を感じ始めた平成28年7月31日（日）に、『岩手県宮城県お茶飲み交流会』が、東海市のしあわせ村にて開催されました。

岩手県、宮城県職員の方による相談会や心身共に癒される温灸体験、今回初となる、笑いヨガなど、会を重ねるごとに中身がますます充実し、すてきな会となりました。猛暑の中の開催ということもあり、前回より被災者の参加が少なくなりましたが、総勢36名でフレンドリーな会になったように思います。

前回から私は、炊き出しに参加させていただいております。今回の昼食のメニューについて事前の打ち合わせの中で、地元（岩手）の料理の『ひつつみ』と名古屋めしの『ひつまぶし』のコラボということもあり、またまたお手伝いをさせていただきました。

コープ愛知の絆カフェの皆さんの仲間に加えていただき7名での調理となりました。交流会の度に、上げ膳据え膳にて、この上ない幸せを感じてごちそうになっていた私ですが、作り手の側になると、さすがに少なからずの緊張を感じました。新鮮な食材の差し入れをいただき、生協大高店の店長自ら、食材を届けていただくなど、料理ができあがるまでのプロセスは愛情と絆と人情の塊だなあと涙が出てくる思いです。また共に働いてくださる皆さんが、年上年下関係なく、心地よく居場所を作ってください、最強



<ひつまぶしを作り終えたところ>



<当日の会の様子>

の手際の良さにて調理をすることができました。味については、皆さんの好みもあるので、何ともいえませんが、少なくとも、心は200パーセントかなと担当の皆さんが思っていると思います。（笑）

被災者になってしまって、ボランティア活動をしてきている皆さんの志の高さに頭が下がる一方の私でしたが、喜んでいただいている様子に触れ、少しだけその心が理解できた気がしました。実行委員会の打ち合わせの一生懸命な心が新たな出会いを見出し、絆が深くなっていくことを肌で感じています。参加していただいている皆さんの細やかな心遣い（会場のすてきな手作りの飾りつけ、こだわりのおいしいコーヒー、遠くからの送迎、会場の確保）等、この会への多くの愛情に比例して被災者の皆さんが1日も早く、本当の復興を実現できることを願うばかりです。津波で多くの物を失いました。今回炊き出しのお手伝いをさせていただき、皆さんとの写真をプレゼントしていただきました。写真を撮るのが嫌いな私ですが、貴重なお気に入りの1枚です。もしかしたら、この5年間の中で失ったもの以上の愛情に包まれているかもしれません。皆さんありがとうございます。

次回は、いつになるか未定ですが、1人でも多くの皆さんに癒しの会に参加していただきたいと思っています。たまに会える場所で、お互いにホッとしましょ。

（避難元岩手県釜石市 鈴木真砂子）

支援団体紹介（特定非営利活動法人 震災リゲイン※）

私たちは震災に関わる各種情報を扱う震災専門のメディアです。被災地における中間支援、直接支援を行い、その活動を通して取材を実施。各種情報の発信、並びに収集・調査・蓄積・分析・提案に繋がっています。震災情報専門の新聞『震災リゲインプレス』を年に4回発行し、全国に無料で配布しています。

2011年3月11日に発災した東日本大震災後、編集者らが集い活動を始めました。認

定NPO法人化を目指し、現在活動に共感してくださる会員の方を募っており、紙面を身近な人に配布するなど、一緒に防災減災の活動をしていただいています。熊本・大分の地震では、生活再建情報を掲載した紙面を被災各地の個人々の復興に役立ててもらえるよう10万部印刷、配布しました。

震災に強い社会環境づくりに寄与することを目的として以下の理念のもと活動しています。

※（リゲイン＝取り戻す、回復する）

◎ミッション…… 「いのちをつなぐ」

災害時に一人でも多くの方の命が未来につながることを願い活動しています。

◎ビジョン…… 「生きる力をつける」

さまざまな情報や体験を通して、個人々の生きる力を高めるための活動をしています。

◎バリュー…… 「愛でる＝支え合う、思いやる」

災害時だけでなく日常生活の中でも、互いに助けあえる社会の実現を目指します。

活動事例

- ・震災専門の新聞『震災リゲインプレス』の発行（年4回、全国4万部、無料配布）
- ・環境省のグリーン復興プロジェクト「みちのく潮風トレイル」の調査・提案業務
- ・被災事業の再開サポート、伝統的な地元お神楽の道具や衣装制作、支援者の活動継続のための資金調達、企画制作協力等
- ・復興に必要な建築家やアーティスト、IT技術者など必要な専門家の紹介、マネジメント
- ・防災・減災について対話の場をもつ「お茶っこ」などの開催
- ・関東の子どもたちの東北被災地視察ツアーの企画・コーディネート他

理事長より

災害が多発する昨今、揺れる日本という小さな国に住む私たち一人ひとりが、災害を生き抜く力を高める必要があります。今まで培われてきた知恵と知識を生かすべく「防災・減災・復興」を日本特有の文化とし、常識として身に備えられるよう、これからも各地における支援と取材、情報発信を続けます。

自分自身がしっかり命をつなぎ、生きる

力をつけ、支え合い、思いやることが、結果「誰かのため」につながると信じています。一緒に日本の防災・減災・復興文化を育て、支え合える社会を実現しましょう。ご協力いただけますよう、よろしく
お願いいたします。 <児童館でお母さん



たちと防災カフェ>

（特定非営利活動法人震災リゲイン 代表理事 松野（相澤）久美）

ぼくの夢・わたしの夢

新コーナーは、日頃「あおぞら」の原稿を書いている方たちが、大人の人たちが多いので、子どもたちの意見も反映させたいという思いからスタートしました。子どもたちの夢を聴いて、前向きになるチカラをもらったり、子どもたちの普段考えていることを知ることでもあります。また、子どもたちも自分の書いた原稿が誌面になって、いい経験になればと思います。

ぼくは犬が大好きです。犬を飼うのが夢です。友達ほとんどが犬を飼っていたから、僕もうらやましくなって飼いたくなりました。飼いたくて、飼いたくて、夢でも犬と

散歩しているところを見ました。もし飼えたら柴犬がいいです。

(小学3年 朱恒毅)



私の夢は、たくさんある

私は、5才になる前に愛知県に引っ越して来ました。震災があつてから1年後です。その時は、「毒から逃げるために引っ越すんだよ」と言われました。

5才になった時に、ママが死んだらどうしよう…と、何回も考えて、怖くなりました。怖くて涙が出たこともよくありました。夜になるとよく思いました。怖くてたまらなかつたし、今も思う。死なない薬を發明する人になりたいと思ひました。

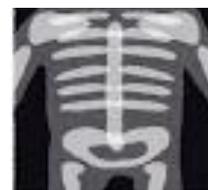
最近は、「放射能から逃げて来たんだよ」と、ママが言ひます。『放射能ってなに？』という本を読んでみたけれど難しい。頭では分かるんだけど、目に見えないことを言われても分かりにくい。

前に喉のエコーを診てもらひました。震災の時に茨城県にいた私と弟とパパの喉にイボみたいなおできが写つたそうです。

いた痛くもかゆくもないし、触つてもポコツとしてないし、色も同じだしあると言われても本当にあるの？と信じられないし、あまり気にならない。でもママと愛知県で生まれた妹にはなかつた。なんか嫌だなあ。ママとパパは深刻な顔をしていたから心配になりました。

なので私の夢は少し変わつて、どんな病気も飲めばすぐに元気になる薬を發明することです。

目が見えない人は目が見えるようになるし、近眼も遠視も、老眼の人もしっかり見えるようになる。喉のおできも消える。からだの中は、何も見えないから、身体中悪いところがないか調べられるようにレントゲンのような機械を發明しなくちゃいけない。



(小学3年 脇田心和)

<このコーナーに原稿を書いてくれる方を募集しています>

『ぼくの夢・わたしの夢』へあなたの夢を書いてみませんか？興味があれば愛知県被災者支援センターまで下記内容をメールまたはFAXをください。宛先はP8に記載されています。

- ①タイトル ②本文 (500～1000字程度) ③掲載するお名前 ④学年 (年齢) ⑤保護者の方の連絡先 (氏名・メールアドレスまたは電話番号) を明記のうえ、メールまたはFAXにてお送りください。



お出かけ情報

～商店街 第2弾～ 街歩き編



相手の顔が見える安心感、安全や信頼に対する関心が高まっている今こそ、商店街に目を向けてみませんか。商店街には、こだわりをもったお店がたくさんあります。あなたの街の商店街でお気に入りのお店を探してみませんか。



覚王山商店街振興組合



場所： 名古屋市千種区山門町 1-47-1
アクセス： 地下鉄東山線「覚王山駅」下車すぐ
連絡先： 052-751-8686

「覚王山」という地名を字面で読み解くと「仏陀の山」という意味です。「覚王」とは「仏陀」の別名です。もちろん、このような高貴な名前を勝手に使っているわけではありません。覚王山の中心ともいえる日泰寺には「仏舎利」があります。覚王山商店街とは、尊き人が眠る聖地のお膝元に広がる街といっても差し支えないでしょう。時に、煩わしい日常を離れ、覚王山商店街を散策してみてはいかがでしょうか。新しい発見があるかもしれませんよ。

<愛知県内の商店街>

| No | 商店街名 | 沿革 | 取組み |
|----|------------------------------|--|---|
| ① | 安城中央商店街連盟 (JR 安城駅 徒歩 1 分) | 明治用水の開通を経て国鉄安城駅の開設を機に発展。農家を相手とする商工業者が集まり現在の商店街の原型となった。 | 安城サンクスフェスティバル…毎年 10 月に行われる「日常の安城のまち」を来場者に PR するためのイベント。各種団体が協働で運営を行うことにより地域コミュニティの発展にも大きな役割を果たしている。 |
| ② | 蒲郡商店街振興組合 (JR・名鉄蒲郡駅 徒歩 5 分) | 高度経済成長期の昭和 39 年に組合が設立され繊維産業の発展と共に賑わいをみせた。現在、店舗数は全盛期の半数ほどに減少しているが、賑わいを取り戻すべくイベントなどに取り組んでいる。 | 福寿稲荷ごりやく市…毎年 6 回 3・4・5・9・10・11 月の第 4 日曜日に開催されている。「食べる・見る・買う」のバランスのとれた魅力ある催しは、大変好評を得ており、毎回 4500 人ほどが訪れる。 |
| ③ | みゆき商店街振興組合 (愛環線三河豊田駅 徒歩 1 分) | トヨタ自動車の工場建設に伴い、各商店が周辺に集まりできた。乗降客の多さを商店街の活気に繋げようと新事業の企画をスタートさせる。 | みゆき屋台村…年に 3 回程度開かれるこのイベントは大好評で、1 回につき 1000 名程度の集客がある。開催される曜日によって客層が異なり、魅力あるイベントとなった。 |
| ④ | 勝川駅前通商店街振興組合 (JR 勝川駅 徒歩 3 分) | 昭和 3 年に建立された「勝川大弘法」が商店街のシンボルとして愛され、現在、勝川大弘法通りを中心に約 50 店が店を構えている。(春日井市) | 弘法市…毎月第 3 土曜日に開催されるテント市。約 300m の通りに並ぶショップやグルメ屋台を目当てに、5000 人から 6000 人ほどの人が集まる。 |

●詳しい情報は各施設のホームページ等をお調べください。上記の情報は愛知県が発行した「あいちの商店街」という冊子をもとに作成しました。詳しい情報は右の QR コードからご確認いただけます。



スタッフ紹介 ～ 事務局 末松良行 ～

支援センターのスタッフになった経緯や今の思いを紹介していきます。
第18回は事務局スタッフの末松良行です。



今年7月から支援センターでお世話になっております。以前は金融機関に勤務しておりました。

阪神・淡路大震災の被災地であった西宮市には、40年来親しくしている友人一家が住んでおり（被災時は神戸の社宅に居住）、また熊本県宇土市は義兄の実家があり、先般の震災で被災するなど、自然災害の脅威はかねてより身近に感じていました。

東北・関東には親戚知人はいませんが、大震災からの復興が進む中、なお多くの方々が意に反し、避難を余儀なくされているとの報道を見聞するにつけ、かねてから「何かお役に立てることはないか」と思っておりました。そして、定年退職を機に、当センターのスタッフに加えていただき、活動に参加させていただくこととなりました。

長年民間企業に勤務した経験を生かし、皆さまのお役に立つよう努めていきたいと思っています。

支援センターからのお知らせ

<編集後記>

- ★大雨で通勤電車がストップ。災害時、家族の帰宅困難の問題を実感しました。(T.N)
- ★チラシをご覧になりましたか？『これからの暮らしをいっしょに考えよう』という交流会を連続6回開きます。相談コーナーではなんでも気軽にご相談いただけますので、ぜひご参加ください。(H.T)
- ★…そういえば花かつおは木材を削った時に出る鉋くずだと思っていた。…そういえば記憶と記録を同じものだと考えているのが我々だと気付いた。(H.I)
- ★いつもランチに行く柳原商店街で『やなぎはら 城下の蜂蜜』を発見！とあるビルの屋上で「みつばちバーやの会」が都市型養蜂としてハチミツを生産している。ミツバチが名古屋城や名城公園などの花壇から蜜を集めてきているからか？ハチミツはちょっとお高い。でも産地が大都市の真ん中なんて、なんてすてき！（K.T）
- ★『とよかわ歴史検定2016』を受けました。受験料は無料で合否などもないので気軽に受けることができます。(J.I)
- ★以前定期便に入っていたドラゴンズ観戦券プレゼントに当選したので、名古屋ドームに行ってきました。試合は負けてしまいましたが、いつもは座れない特別な席で、親子で豊かな時間を過ごせました。感謝しています。(Y.Y)
- ★お盆に帰省された方もいらっしゃるかと。子どもに「ふるさとは東北」と言える未来にしたいです。(E.K)
- 10月のイベントの詳細は定期便に同封のチラシをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。

あおぞらに関する
ご意見ご感想はこちら



〒460-0001
名古屋市中区三の丸3-2-1
愛知県東大手庁舎1階
愛知県被災者支援センター
TEL: 052-954-6722
FAX: 052-954-6993
Mail: aozora@aichi-shien.net